

第三回 丸山眞男研究プロジェクト公開研究会報告

日時 二〇一四年九月二二日(月) 一五時～一七時
場所 東京女子大学 二四二〇二教室

報告者 渡辺 浩氏(法政大学教授)

論 題 どんな「男」になるべきか…江戸と明治の男性理想像とその変化

「女」とは、そして「男」とは何か。また、それぞれはいかにあるべきか。その答は様々であり、変化する。しかも、その答が個々人の生き方を左右し、社会・政治の構造や状況と関連している。この報告は、維新の前と後の日本における男性理想像を主題とする。

徳川の世の初期において、武士は「男の中の男」だった(「花は桜木、人は武士」)。そう信じられることが、政治体制の安定と連関していた。しかし、様々な要因により、徐々に武士はその耀きを失っていった。一方、町人たちによる別の理想像も生まれた(「分限者」「大尽」「粹人」「通」「丹次郎」等)。誇りを失いつつあった武士たちのためには、中国の思想・歴史・物語から学んだ「義士」「英雄」「豪傑」という理想も登場した。幕末の「志士」はその延長にある。明治維新は、「志士」たちによる革命だった。その「成功」によって(「維新の三傑」、その後、「志士」「壮士」「国土」、そして「英雄」「豪傑」の理想は称

揚され続けた(「富豪」「文豪」はその応用)。それは、一面で自由民権運動の活動家たちをも支えた。しかし、この男性理想は徐々に陳腐化し(「東洋豪傑」、公然と批判もされた)。

一方で、「紳士」が登場した。パンカラな「書生」からハイカラな「紳士」へと出世の理想も描かれた。また、「紳士」の応用として「紳商」「田舎紳士」等の語も造られた。しかし、『紳士録』の刊行が象徴するように、「紳士」は単に社会の上層の男性を指す語に速やかに希釈され、社会や政治への不満は「紳士閥」への反感ともなった。それは、一面で、「紳士」と対置される「豪傑」「英雄」への憧れを持続させる土壌となり、他面で、男性理想像を描けない「煩悶青年」たちの出現にもつながった。「煩悶青年」たちは「新しい女」たちと同世代である。彼等には共通の世代的背景があった。しかし、(一見、「性」に中立的な)「人格主義」「教養主義」も、「煩悶青年」たちには救いの手をさしのべたものの、実は、「新しい女」にはさしのべていない。では、戦後の「近代的人格」「主体的人格」「強い個人」の理想はどうか。その「性」の角度からする検討は、これからの課題であろう。

文部科学省 平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
20世紀日本における知識人と教養
—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—

第3回 公開研究会

どんな「男」になるべきか

—江戸と明治の男性理想像とその変化—

講師： **渡辺 浩氏** (法政大学 教授)

2014年9月22日 (月)

時間：15:00～16:30

会場：東京女子大学 24202 教室

申込不要・入場無料

問合せ先：東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター
〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
Tel: 03-5382-6817 Fax: 03-5382-6120
E-mail: marubun@lab.twcu.ac.jp
HP: <http://www.twcu.ac.jp/facilities/maruyama>

講演の概要

「20世紀日本における知識人」という時、思い浮かぶのは男性の姿ではないでしょうか。何故でしょうか。そういう人は、実際に男性が多かったから？ では、何故、男性が多かったのでしょうか。

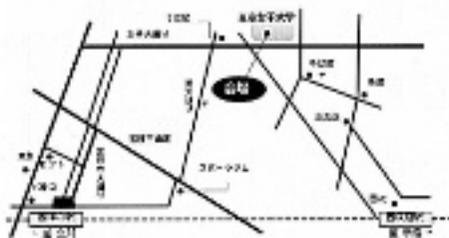
「女」とは何か。「男」とは何か。また、それぞれはいかにあるべきか。その答えは、地域・時代・身分階層などによって、実に様々です。しかも、その答えが、社会・政治の構造や状況と関連しています。この報告では、どのような男性が理想的と考えられ、感じられたのか（それは、女性の理想像と表裏をなしています）について、中国や欧米と比較しつつ、江戸時代と明治の日本における類型と変化を、お話します。いわゆる「明治維新」を敢行したのは主に男性でしたから、彼等の男性理想像は、彼等の行動と深く関連しています。しかも、その結果としてできあがった新しい社会では、別の男性理想像が登場し、古いものと衝突します。20世紀、そして現在との連続と差違をを考えながら、聴いていただければ、幸いです。

講師プロフィール

渡辺 浩 法政大学法学部教授。専攻は日本政治思想史。著書に、『日本政治思想史 17-19世紀』（東京大学出版会、2010年）、『東アジアの王権と思想』（東京大学出版会、1997年）、『近世日本社会と宋学』（東京大学出版会、1985年。増補新装版、2010年）など。

東京女子大学へのアクセス

JR西荻窪駅北口より徒歩約12分。
バスの場合は西荻窪駅北口より吉祥寺駅行きバス/JR・京王井の頭線吉祥寺駅より西荻窪駅行きバスで「東京女子大前」下車。



丸山眞男文庫とは

日本政治思想史の研究を中心に、政治思想家として世界に向けて発信し続けた丸山眞男は、戦後の日本を代表する知識人でありましたが、その思索の跡を伝える約2万冊の蔵書と約3万頁の草稿類が1998年に東京女子大学に寄贈されました。東京女子大学は、日本における丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理を進めるとともに講演会、公開研究会、公開授業等を開催しています。

「20世紀日本における知識人と教養」プロジェクトとは

東京女子大学は、2012年度より、丸山眞男文庫の資料に基づいた研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」を開始しました（文部科学省平成24年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択プロジェクト）。このプロジェクトは5年間にわたって二つのテーマ（「20世紀知識人の教養と学問—丸山眞男文庫を素材として—」および「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」）を軸として、研究を進めています。（HP：<http://www.twcu.ac.jp/facilities/maruyama/project>）